

患者が変われば 医療が変わる 医療が変われば 地域が変わる



島根益田がんケアサロン 代表
C・T・V創生研究所 所長 納賀 良一

1937年5月、石川県金沢市生まれ。同志社大学文学部卒。特殊精密機器メーカーの㈱フジキン総務部部長兼改革推進室リーダーを経て、1994年3月、1ターンで益田市移住。益田ドライビングスクール合宿型システム作りを依頼される(ガイアの夜明けで放映)。その後、C・T・V創生研究所設立。地域で観光、定住、教育、医療など街おこしを実施。2005年12月、全国初のがんサロン開設。

第24回 新しい出会い

数カ月前、県医療対策課に、県下で「在宅医療」が一番進んでいる地域と開業医を教えてほしいと依頼した。数日後、出雲市SクリニックH医師(女医)を紹介してくれました。その医師とメールで打ち合わせしてお会いする日時を決めた。その日

看取る人、看取られる人から多様な意見

は出雲までソロ歌手のミネハハさんの歌声を聴きに行く日でもあった。ミネハハさんの歌は私たちの歌なのだ。タイトルは「いのち」。

夕方出雲駅前でH女医と会った。益田保健センターのFさんと一緒だった。出会ったのは若い女医だった。在宅医療に若い先生、何か不思議な感覚がした。先生と私、在宅医療で話しが盛り上がった。コーヒーがすぐに空になった。その場で次に開催する「生き方、逝き方カフェ」の開催の案内があった。毎月第3土曜日に開催されているらしい。

2月20日のそのカフェ

に参加するため、出雲に向かった。みぞれが降っていた。益田から出雲までは車で3時間、130キロの距離がある。でも行く価値があると確信していた。その場には15名ほどの参加者があった。会費は300円。初対面の方がほとんどだった。病院の医師が今回の幹事役。テーマは「スピリチュアルについて」。

数年前仙台で開催されたスピリチュアル学会に参加したことがあったので、十分理解できたし、楽しかった。医師、看護師、教員、患者、患者家族、僧侶まで多彩な参加者だった。新しいイベントで新しい出会い。これまた嬉しい。3グループに分

かれてディスカッションを行い、価値観の違いが明白に出た会だったが素敵な2時間を過ごした。看取られる人、看取る人、それぞれの立場から意見が出た。この様な話は滅多にできないと思う。私の住む益田市にもこの様な会があれば嬉しいのだが、誰が仕掛けたらいいだろう。やはり医療者でなければ上手くいかないのだろうか。がんサロン支援塾が行っている技法によく似ているがこの会のほうが話しに幅がある。有意義な時間だったが帰り道が遠い。いろんな意味で地域格差を感じているが、距離という時間の無駄も格差の一つかもしれない。

かかれてディスカッションを行い、価値観の違いが明白に出た会だったが素敵な2時間を過ごした。看取られる人、看取る人、それぞれの立場から意見が出た。この様な話は滅多にできないと思う。私の住む益田市にもこの様な会があれば嬉しいのだが、誰が仕掛けたらいいだろう。やはり医療者でなければ上手くいかないのだろうか。がんサロン支援塾が行っている技法によく似ているがこの会のほうが話しに幅がある。有意義な時間だったが帰り道が遠い。いろんな意味で地域格差を感じているが、距離という時間の無駄も格差の一つかもしれない。